

2023 年度冬季における沖曳網でのホンモロコ漁獲物調査

寺井章人・根本守仁

1. 目 的

ホンモロコの適切な資源管理には正確な資源評価が必要不可欠となる。そこで資源評価を進めるための基礎資料とする目的で、産卵直前にあたる冬季の主要な漁法である沖曳網での漁獲物について年齢や体型を調査し、過年度の結果と比較した。

2. 方 法

調査は、2024 年 1 月 22 日～2 月 29 日に、琵琶湖北湖の沖合で沖曳網により漁獲されたホンモロコ 1,933 尾を対象に実施した。標本は、冷凍保存し解凍後に体長、体重等を計測した。過去の標本の体長体重関係から求めた体重の期待値(体重期待値(g))= $2.52 \times 10^{-6} \times$ 体長(mm)^{3.42}と実測体重の比から肥満指数を求め、肥満状況の指標とした。年齢査定は鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結 果

年齢構成は、0 歳魚が 88.0%、1 歳魚が 10.4%、2 歳魚が 1.4%、3 歳魚が 0.2%であった。2023 年度は 1 歳魚以上の割合が高く、近年やや高齢化の傾向が見られる(図 1)。

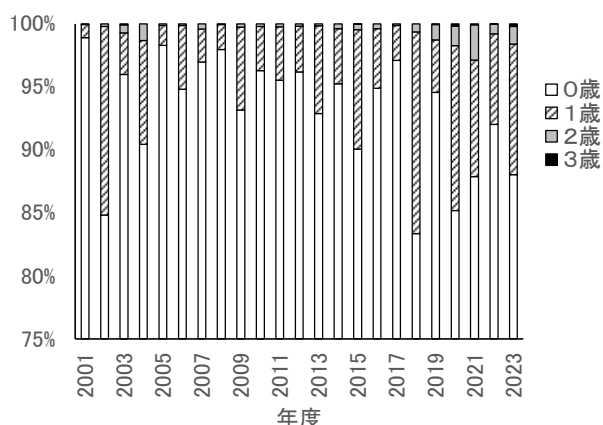


図 1 沖曳網で漁獲されたホンモロコの年齢構成

体長について、0 歳魚では 80.71 ± 8.52 (平均±標準偏差)mm であった。2023 年度はやや大きく、2012 年度以降で初めて平均体長が 80mm を越えた(図 2)。

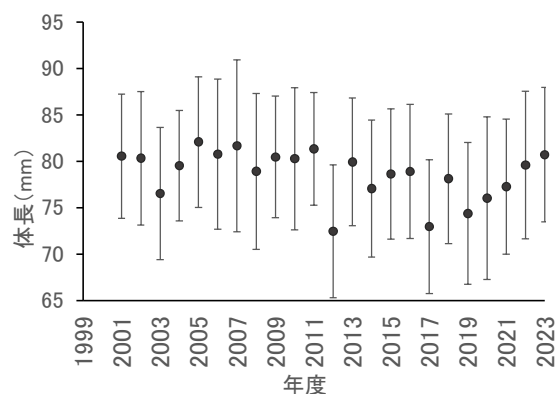


図 2 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコ 0 歳魚の平均体長

※エラーバーは標準偏差

肥満指数は、2016 年度以降 1 を下回る低い値で推移している。2021 年度以降は特に低い値となっており、再生産等資源への影響が危惧される(図 3)。

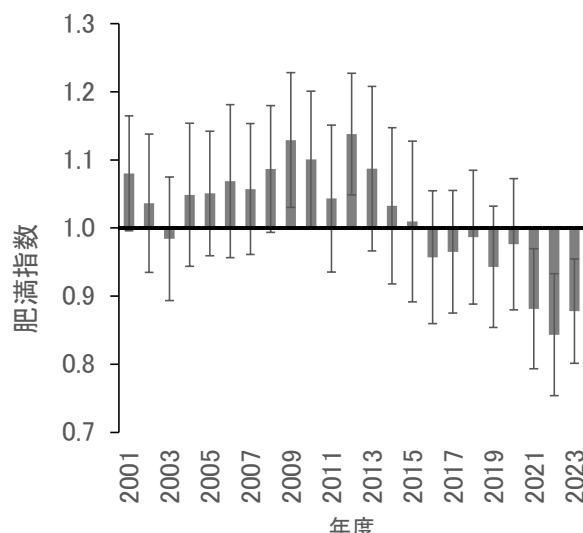


図 3 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコ 0 歳魚の肥満指数

※エラーバーは標準偏差

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。